

報道関係各位

2018年7月吉日

AI 小型ロボット「COZMO(コズモ)」を教材に小学校でプログラミングを体験！**タカラトミー出張授業として初めてプログラミング授業を実施！**

2020年プログラミング授業必修化に先駆けて実施

株式会社タカラトミー

株式会社タカラトミー(代表取締役社長:小島一洋/所在地:東京都葛飾区)は、次世代教育支援活動の一環として行っている小学校へのお出張授業プログラムとして、初めて「プログラミング教育」を題材とした授業を、2018年7月4日に柏市立風早南部小学校(校長:田崎和彦/所在地:千葉県柏市)にて行いました。



タカラトミーは、「100ねんあそぼ。(※1)」をコンセプトに2012年から、出張授業と社会見学の受入れを、次世代教育支援活動として実施しています。今までの出張授業では、“環境教育”、“キャリア教育”、“バリアフリー”等をテーマとした授業を行っていましたが、2020年にプログラミング教育が全国の小学校で必修化されることが決定したことで関心が高まる中、初めてプログラミング教育を題材とした授業を実施しました。

今回の授業は、小学校5年生の2クラス47名を対象に、当社の小型AIロボット「COZMO(コズモ)(※2)」を教材として、「COZMO(コズモ)」のマーケティング、開発担当者が先生となり、45分間の授業の中で行われました。

使用した「COZMO(コズモ)」のアプリの中のプログラミングコンテンツ「コードラボ」は、「COZMO(コズモ)」の動作等が描かれたブロックをいくつかドラッグ&ドロップするだけで、簡単に操作できるので、子どもでも簡単にプログラミングが体験できます。授業の中では、15分程度の説明で、全員がプログラムに挑戦し、「COZMO(コズモ)」にブロックを持ち上げさせたり、自由に動かしたり、笑わせたりさせることができました。



小型 AI ロボット「COZMO(コズモ)」



プログラミングアプリ「コードラボ」の画面。ドロップ
&ドラッグで簡単操作

【プログラミングを体験する生徒の様子】



なお、当日はプログラミング授業のほか、タカラトミー従業員6名が先生となってキャリア教育をテーマとした授業も同時に実施いたしました。

タカラトミーでは、今後も、未来を担う子どもたちと共に「持続可能な社会」「共生社会」を形成していくことを目指し、「100ねんあそぼ。」をコンセプトに教育支援活動に積極的に取り組んでまいります。



柏市立風早南部小学校 田崎 和彦 校長

「タカラトミーは、子どもたちにとって身近な企業で、子どもたちも関心をもって授業に臨めるので、効果が高いと思い、2度目の出張授業の機会を作りました。2020年に小学校でのプログラミング教育が必修化されるが、どういった教え方ができるのか、小学校としても模索しています。今回こういった機会があり、子どもたちに良い刺激になったと思います。」

【プログラムの概要】

対象：小学校5年生 所要時間：90分

実施形態：前半はキャリア教育をテーマとした、グループワーク、後半はプログラミング教育をテーマとした2人1組の授業形式

【プログラムの流れ】

■前半(45分)

1. 一日先生 自己紹介とお仕事紹介
2. 聞く時間 子どもたちによる社員へのインタビュー
3. 発表の時間(まとめ)
4. タカラトミー博士認定式

■後半(45分)

1. 「COZMO(コズモ)」の説明
2. 「COZMO(コズモ)」のプログラミングアプリ「コードラボ」の説明
3. 「コードラボ」で「COZMO(コズモ)」のプログラミングにチャレンジしてみよう！

【次世代教育支援活動のコンセプト「100ねんあそぼ。」】

創業者・富山栄市郎がわずか12歳でおもちゃづくりを志してから約100年、私たちのおもちゃづくりには、個性豊かな社員たちのアイデアや努力、そして「世界中の子どもたちをおもちゃで笑顔にしたい」という熱い想いが脈々と受け継がれてきました。一方で昨今、資源の枯渇や地球環境の悪化、多様な価値観が生み出す社会問題など様々な社会課題に直面しています。私たちは、おもちゃを通じて子どもたちと課題を共有し、一緒に「持続可能な社会」「共生社会」を形成し続けていきたい！という想いを「100ねんあそぼ。」の言葉に込めています。

CSR HP: www.takaratomy.co.jp/company/csr/index.html

次世代教育支援 HP: www.takaratomy.co.jp/eco/educational_csr/

【小型 AI ロボット COZMO(コズモ)】



米国で「Anki(アンキ社)」により開発・発売された、小型 AI ロボットです。日本では2017年9月にタカラトミーが販売しています。手のひらに乗せられるほど小型でありながら、360個のパーツで構成されており、160万行以上のプログラミングで構成され、1,000種類以上の感情を豊かに表現します。

<報道各位から本件に関するお問い合わせ先>

株式会社タカラトミー 広報課 TEL:03-5654-1280 FAX:03-5654-1380

<読者から商品に関するお問い合わせ先>

株式会社タカラトミー お客様相談室 TEL:0570-04-1031(ナビダイヤル)